

令和7年度日光市まちづくり懇話会(落合地区)概要

日 時:令和7年11月27日(木)午後6時50分～8時30分

場 所:日光市役所落合公民館会議室

参加者数:○地区側参加者5名

○市側参加者(市長、副市長、企画総務部長、地域振興部長、他地域振興課職員)

【市長】

皆様、こんばんは。本日は遅い時間にも関わらずご参加いただきありがとうございます。私が市長に就任して初めての懇話会となります。全9地区で開催を予定しており、落合地区は3か所目です。今回の懇話会は、参加者から各自治会や地元で抱える課題、また日光市への提案など、皆様の声を聞かせていただき、そのご意見を今後の政策や事業推進に活かしたいと思っています。

来年から日光市の第3次総合計画が始まります。これは10年の計画で、市運営の最上位計画です。私もこれを念頭に市長選に立候補し、現在は市長として仕事をさせていただいております。新計画は既にパブリックコメントや議会で示しつつ調整中ですので、細部はまだお話しできませんが、日光市の10年後をどう作っていきたいか、柱を1つ挙げます。

大きな課題は人口減少です。日光市は全国的にも減少率が高く、減少するスピードがあまりに早いので、そのスピードをできる限り緩めたいと考えます。現在7万4,000人の人口がこのままでは10年後5万6,000～7,000人に推計されています。何とか6万人を維持したいと考えています。人口減少対策は1つの手法だけでは難しく、様々な取り組みの組み合わせが必要です。

特に女性が住みやすい環境づくり、そして若者が市外に出てもまた戻れる環境づくりが大切です。栃木県は全国的にも男女共同参画、女性活躍の指標が遅れており、その中でも日光市は遅れています。お母さん方が安心して子育てできる環境、および産業創出、移住定住促進施策などが連動し、若い世代や女性が住み続けたいと思えるまちづくりを進めていきます。

私自身も子育て中の父親で、リアルな声を聴いています。子育て支援や教育支援も県内トップ水準を目指すにはお金もかかることであり、まず最低水準を超えるよう整備していくべきだと思っています。他自治体と競争可能なレベルまで引き上げた上で、さらに日光市のブランド力も活用して県内他自治体との競争を勝ち抜き、今後10年間のまちづくりを進めたいと考えます。女性や若者の活躍の場を次期計画の柱として行政運営を進めますので、各自治会長の皆様には地域の代表として、ぜひご支援・ご協力をお願いいたします。

【参加者 A】

本日資料をいただきましたが、小学生の感想文のような印象で抽象的なことを書きました。抽象的な内容になっています。

我々の地域も市長がお話されたとおり、少子高齢化と人口減少が深刻です。岩崎自治会は加入が約113戸、人口は400人ほどです。小学校に上がる子どもが毎年少なく、反対に高齢者は多く、敬老会対象者も年々増加しています。

一方で、日光市は観光資源のほか、水など良い部分が多いので、それらの活用を考えたいと思っています。落合地区は農村部で平穏なところですが、今年初め、県の事業だと思いますが、奥日光と日光の交通プランのガイドラインができて検討会が始まったような新聞記事を見ました。この辺も道路の整備が進んでいる

ようで、こうした交通施策の活性化も進めば地域が盛り上がると思います。

また、高齢者が多いということで、男性の県内最高齢者は岩崎の107歳の男性など、長寿な方が多く、90歳代でも元気に活動している方がいます。こうした高齢者の活用も重要だと思っています。地域は少人数なのでコミュニケーションが密で、スポーツなどの行事も活発で、これをさらに進めていければと考えています。

【市長】

ありがとうございます。岩崎地区は宇都宮にも近いですが、生活の中で宇都宮や鹿沼への行き来は多いのでしょうか。

【参加者 A】

病院や買い物などは鹿沼や宇都宮に行く方が多いです。日光市の東部なので鹿沼市や宇都宮の環状線まで約20分でアクセスでき、生活面でも今市の方と半々くらいの感覚です。

【市長】

農家の方の後継問題などはどうでしょうか。

【参加者 A】

農業を専門でやっている方はごく少数で、大多数が作業を委託している状況です。

【市長】

耕作放棄地は？集約されていて、あまりない印象ですが。

【参加者 A】

あまりないと思います。

【市長】

水のお話がありましたが、土沢の産業団地にはミネラルウォーターの工場ができる予定もあります。水は日光市にとって大切な資源、市の特徴として売り出せる資源だと思います。水がおいしいからお米もおいしい。水や米などの地場資源をうまく活用・PRしていきたいですね。

【参加者 A】

もっと強くアピールすべきだと思います。

【市長】

日光市はブランド力や認知度は1700自治体の中でも上位ですが、シティプロモーションが上手くいっていないと言われていました。首都圏に売り込んで移住定住につなげようとしていますが、私は50万人の宇都宮にももう少しアプローチして、経済や人の流入など。首都圏に売り込むのも大切ですが、宇都宮にもアプローチして日光市に引き込むことを、これからやっていきたいと思っています。どこを目指して売り込んでいくかという方向性は、これまでとは少し違う形でやっていきたいですね。その最前線に立つのは隣接する岩崎地区、宇都宮の最前線ですので、岩崎地区の良さを宇都宮にアピールしながら、1歩入れば日光だよと、世界遺産のあるまちに住む良さをしっかりアピールしながら、若者や女性に住んでもらえるように進めていきたいと思っています。また、私もいろいろな行事に参加させていただいていますが、岩崎の皆さんは熱心で、コミュニティも強いと感じています。

【参加者 A】

岩崎地区は他地域に比べてもコミュニティが活発な感じがしています。

【市長】

地域の日ごろの結びつき、これまでの積み重ねもあるでしょうね。

【参加者 B】

2つ挙げました。1つは、文挾町はもともと宿場町で商業が盛んで店が多い時代もありましたが、今になって商店がほとんどなくなり、買物等に非常に不便をきたしています。もう1つは病院ですが、病院は無理だなと思っています。この点について、何かしら確保して利便性を高めることができないかということです。市内のスーパーやドラッグストア、コンビニなどに市が介入して、地元の人材や資源、建物などを活用しながら小売店の確保を考えられないかということです。

もう1つは、自治会の加入率が下がっていて、脱会する方も増えているなかで、ごみステーションや防犯灯は自治会費で維持管理していて、加入していない方もごみステーションを使うけど会費は払わないということで、徐々に不満の声が高まってきています。これを何とか是正していかなければならないという思いで、最近の福井県の事例、未加入者も年間15,000円を払ってごみステーションを使うことで和解したという例など参考にしつつ、自治会は互助・共助の世界なので、助け合いを前提にしながら対立のない良い解決策を含めて、市との連携も図れないかという思いで2つを挙げました。

【市長】

自治会の加入については、自治会長の皆さんからたくさんお話をいただいています。全国的な問題でもあり、ゴミステーションや防犯灯の維持管理の不公平感が最も大きいですよね。ご存じのとおり自治会は任意団体ですので、市の立場で強制できないというのが大前提です。その上で、ガイドブックなども活用していただきながら、なぜ入るのか、なぜ会費を負担するのかというところを、ていねいに説明する必要があると思います。若者はメリット・デメリットで物事を判断するそうで、メリットがなければ団体やグループにも属さず1人で活動する傾向が強いです。自治会加入のメリットは難しいですが、入るべき理由をていねいに説明する必要があるのだろうと考えますし、自治会長や役員の皆さんにもお骨折りいただかなければならない点になります。難しい問題だと思います。

【参加者 B】

市は自治会の存在をどのように考えているのか、と思ったりもします。私も市長の考え、その通りだと思います。何か恩恵が無ければ会費を払った意味がないという、それはその通りで、我々もメリットを見出せるように年間の計画を考えてはいるのですが、なかなかインパクトのあるものにならない。自治会って何なんでしょうね。

【副市長】

宇都宮市では自治会加入者とゴミステーション利用者は分けていて、自治会に入っていない人にもゴミステーションの当番は回るようになっています。

【参加者 B】

文挾町でもそのように分けて、当番は回るようにしていますが、当番の分担だけでなく維持管理の費用がかかる部分に不公平感を感じます。他の自治体で、自治会未加入者用のごみステーションを設置しているところもあると聞きました。その方法をやって良いものなのか、考え方の違いが余計に生じるので良くないように思います。意識の問題として。

【副市長】

宇都宮市の場合、ごみステーションにあるごみネットに民間企業の広告が入っていて、無償提供という形になっています。未加入者用のごみステーション設置は、収集箇所が増えて費用が倍増することを考えると現実的ではないと思います。コミュニティ醸成の意識の問題もあるでしょう。

【地域振興部長】

市として、自治会未加入者に「ごみステーションを使わないように」とは言えないところがあります。市内にもごみステーション利用料を取っている自治会もありますが、その伝え方が重要だと思います。伝え方を誤るとトラブルになりかねません。

また、昨年度末に皆さんにご協力いただき実施したアンケートの結果がまとまり、12月の自治会長会研修会で発表いたしますが、自治会長の皆さんが課題だと思われることがアンケート結果からも見えてきました。今後、市として自治会未加入者に対してもアンケートを実施したいと考えています。未加入の理由なども聞いてみたいと思いますし、結果を踏まえて自治会連合会の皆さんとも相談しながら、市としての対策も検討したいなど、担当課では考えております。

【参加者 B】

できれば、市から未加入者に対して、ごみステーションには使用料が存在することを伝えてもらえれば、自治会の中でも話し合いができるかもしれない。

【市長】

宇都宮市では、自治会加入者にカードを配っていて、お店などでサービスを受けられるという、加入のメリットを設けているそうです。そうしたメリットを作るというのも1つの方法ではありますが、個人的には、そこまでするのはどうなのかなと思います。自治会の位置づけが変わってくるようにも思います。

【参加者 B】

基本的に、自治会は互助、お互いに助け合うということですからね。

【参加者 C】

明神地区は昔から農業関係者が多いですが、近年農業離れが進んでいて、若い人は地域外へ働きに出てしまいます。昔は兼業農家も多かったのですが、土地改良も進み、今では農地は持っていたても誰かに委託しているケースが多く、農家の長男が農業を継がず結婚で市外に出してしまうので、「農業はもうやらない」という高齢者夫婦だけの世帯も増えています。そうすると自治会活動は高齢を理由に断られる、若い人がいる世帯でも「自治会の役はやらない」と断られてしまいます。また、明神には7つの神社があり、氏子も自治会活動の中で行っていますが、やることも多いので嫌がられてしまい、人が減り担い手も不足して自治会活動が上手くいかなくなっていると感じています。

先日、大学時代の友人に会ったのですが、とても行動的で積極的な人物で、地元の歴史や文化などを調べる活動を中心になって行っていたり、野球チームを作って監督をしていたりと、とにかく活動的です。そんなことで、活動的な人はどの地域にもいると思うのですが、それを発掘できていないし、自治会としてもアプローチしていないなど。今までと同じやり方では進歩はないなど反省させられました。活動的な人材を積極的に見つける、地元がいなければ他地域から連れてくるなどして、スポーツ・文化・芸術などで小学生や中学生を指導してもらえるような、良い人材を見つけて育てることを心掛けてもいいのではないかと。私自身も含めて、これまで能動的に人材を見つけたる努力が足りなかったと感じています。

明神には陶芸で有名な方がいて、空き家を活用した自然農園に陶芸の工房を建設中なので、自治会としても応援すれば人が集まってくるような、良い指導者がいて良い場所になるのではと思っています。また、若い人たちで協力してくれるのは、子どものスポーツなどでの親同士の繋がりで役員の手を集めてきてくれるということがあり、上手く活用しながら人を集めたいと思います。

【市長】

神事や催事で子どもが足りないとき、お父さんやお母さんが他の地域の子を誘ってという話で、結局は人の結びつきですよ。これまで3会場でも、自治会の加入率のお話が多くて、市内にはたくさんの伝統芸

能・行事があって、これをどのように維持していくのか、継承していくのかというのが課題の1つです。今、日光市は、市内を9地区に分けて自治会の協議会を作り、何かあれば9地区ごとにまとまって運営していきこうという組織を作っています。本来なら、小学校区や中学校区などもう少しコンパクトな単位で協議会を作り、自分たちの自治会で人手が足りないときなど、自治会を越えた協力・支え合いでイベントや行事を行おうということです。日光市は少し大きく作ったことで、現在は動きが鈍いようですが、もう少し細分化して自治会同士で人材を協力し合うなど、コミュニティの幅を広げるような取組みをしていかなければいけないと思いますし、その根底は人と人との繋がりがだと思えます。おっしゃるとおりで参考にさせていただきます。

【参加者 E】

私も若手リーダー育成が必要だと思っていて、リーダーシップや課題創造などのセミナーなどが必要と思いつつ参加者はいないだろうと思っていたのですが、今の話で、自治会長が地域のリーダー候補を発掘し、市のセミナーなどに参加してもらうようにすれば繋がりができます。地域の課題解決や自分の関わり方を学ぶ場があれば、発揮したい人も出てくるように思いますし、地域と市が協力できておもしろいのではないかと思います。

【市長】

自治会では人材を発掘していただいて、横の結びつきをしていただくと。

【参加者 E】

それで市へ推薦してもらって、市が良いセミナーを用意する。これなら相乗効果が期待できるかなということです。

【市長】

今、自治会に青年部はありますか・・・ないのですね。落合地区にはありますか。

【参加者 A】

昔は青年団がありましたが、今はありません。自治会でいうと、自治会の中に公民館があり、公民館が青年部を兼ねているような感じです。

【参加者 D】

コロナが5類に移行し各種行事が再開してきましたが、参加住民は少なく、毎回同じメンバーです。市指定無形民俗文化財である文挾流獅子舞のイベントも、かつては朝8時から夜10時まで地区総出で行っていましたが、今は参加者も少なく規模を縮小して、朝8時から正午まで半日で行っています。踊り手が高齢化しており、後継者もあまり育っていない状況です。

課題解決には、地域住民の繋がりを深めることが大切で、全世帯が参加するような体制づくりのための普及・啓発、情報発信を行う。また獅子舞の後継者育成は喫緊の課題で、保存会などを整えて努力していただくことが大切だと思います。

現在、下野民俗研究会に自治会として協力して、獅子舞を中心とした手岡の歴史・文化を記録と映像に残すことに取り組んでいます。これを啓発に活用していきたいと考えています。

また別件ですが、家庭ごみの有料化で減量化が進んでいるかを伺いたいです。

【地域振興部長】

家庭ごみの有料化について、平成30年度にそれまでの3分の2に減り、それ以降は微減が続いています。また事業系ごみについては、ここ数年で減ってきています。減量化が進んでいるのかどうかを端的に答え

るなら、微減で進んでいてごみ減量の意識も継続しているということです。

【参加者 D】

平成29年当時、担当課職員が説明に来た際に、当時の鹿沼市が45リットル1枚30円に対して、日光市は45円とする理由を聞くと、ごみの減量化が進めば下げると言われたので、お聞きしました。

【市長】

現状で、ゴミ袋の料金を下げる予定はありません。歴代市長も常に議論はしており、私も市長就任後にいろいろな数値を確認しましたが、最終的に下げるのは難しいと判断しました。コストや財政状況など条件が整えば見直しもありえますが、現状では難しい状況です。

【副市長】

いろいろなものが値上がりしていて、ゴミ処理の経費なども上がっていて、本当は値上げも考えるべきところ、上げることはやめて現状維持でやらせていただいています。

【市長】

獅子舞のお話もそうですが、自治会の加入率低下やコミュニティの維持が難しい中でも、伝統行事・文化芸能が地域に根付いているのは日光市独自の強みであり、これらを維持することで、ある程度コミュニティが保たれると話す大学の先生もおります。さらには、行政もしっかり自治会と連携して伝統行事・文化芸能を維持していくことで、1年に数回でも老若男女が集まる機会になり、地元を離れた人が帰ってくる、若者も集まる、そのような維持の仕方ができるとのことです。

ただ、後継者の問題は難しく、今の若者の考え方や仕事との関係、親から子へという関係性も変わり、維持するのは困難だとの話も聞いています。その点、行政に「こんな支援をしてほしい」などあれば、ぜひお聞きしたいと思います(難しいですねの声)。

先ほどお話いただいたように、近隣の地域からやる気のある人を連れてくるような方法になるのだと思います。

【副市長】

似た話で、今市のまちなかの屋台や神輿について、今市のまちなかも空洞化が進んで担ぎ手がないとか、屋台を出す人手がないとなったときに、本当に人が少ないところは地域外の人に声をかけて、私もその地域ではないのですが誘われて、15年くらい神輿を担いだり屋台を引いたりしました。そのうち、地元の若者が私たちの姿を見て参加するようになりました。町外の人たちを呼んで存続を図りつつ、その間に町内の人を取り込むことで、現在その町内は地元の人たちだけで神輿も屋台もできるようになっています。市長の話にもありましたが、周りの興味ある人たちというのは1つの方策かもしれないと思いました。

【参加者 D】

確かに鹿沼の秋祭りでも、外国人が屋台を引っ張っているようで、多角的に考える必要がありそうですね。

【参加者 E】

私は宇都宮に会社があり、宇都宮から移住してきました。不便なことは知っていて、都会並みに良くなるとは思っていません。ただ安心・安全は重要で、そこはしっかりしなければと思っています。

いま、文挾町では空き巣の問題があり良くないと思っています。分譲地の入り口は4か所程度なので、住民で費用負担して防犯カメラを設置して防犯レベルを上げて、市が設置を呼び掛けたり対外的にアピールしたりすることで、被害も減ると思うので、そのような取り組みができればと思います。また、各家庭にセンサーライト導入と家の前の道路を照らすように呼びかけることで、安全に帰宅できるようになるでしょうし、どこでもできる策かなと思っています。ここまでが、先ほど市長も言われた最低ラインを上げるところで

す。

もう1つ、私は田舎の出身なので、田舎の生活がどんなものか分かっていましたが、文挾町の良いところは、田舎なのに日光や那須に近くて、JRでの宇都宮へのアクセスがとても良く、東京出張から日帰り帰宅できる便利さがある、そんな生活が出来ることをもっと発信すべきだと思います。市長の話で3,000人のギャップを埋めるには普通の人を呼び込む必要があり、普通の人を呼び込むには市ホームページに掲載のある「起業家が活躍する様子」だけでなく、普通の会社員であったり、それこそ女性や地域で活躍する人をフォーカスして、日常生活をイメージできれば、自分の生活もイメージできると思うので。

また、不便さはあるものの、衣服や家具の量販店、小児科、休日診療の病院など、すべて車で20分程度で行くことができるので、その情報を発信すれば、「それなら生活できるかな」と想像できるようになるので良いと思います。それには、SNSでの発信や、不動産業者・住宅メーカーなどと連携した外部からの発信が有効だと思います。

次の提案は、私個人では不可能で、市が取り組んでくれたらいいなと思うアイデアです。共働き世代の家事問題で、その世代を呼び込むとか、転出しないことを考えたとき、家事の負担が少しでも減らないと「不便だな」ということで、なんとなく都会に出て行ってしまいます。また高齢者の食生活問題、先ほどもお店が無いとの話がありました。起業機会は、文挾で事業を立ち上げようという機会がないように感じています。そこで、例えばオープンなガラス張り無人の冷凍食品販売スペースがあり、コインランドリーやイトインスペースが併設された施設が文挾のため池辺りにあれば、池周辺が明るくなって人も集まります。お試し出店スペースなどもあればなお良く、冷凍設備と施設のレンタルを市が支援して、このような拠点をいくつか設置していけば、費用の問題はありますが憩いの場が出来て良いなと思います。

他のアイデアとして、シルバー人材センターも使い方が分からなくて、低料金で簡単に依頼できるなら活用すると思うので、その辺の周知方法について考えてもらえたらなと思います。共同庭園については、私が文挾に住んだのは「庭が欲しい」「JRの駅に近い」「小学校に近い」という条件で探したところ、宇都宮から徐々に離れてここまで来たという感じでした。庭を持てるのは魅力に感じていて、ため池横の道をもう少し整備して、自由に植えてよいスペースを作ったら、住民が勝手に花を植えて、さらに道もきれいになって、ということが出来たらいいなと思っています。

ローカル SNS は、発信している人が少ないなと感じています。文挾分譲地内のお店はかなり熱心に発信していて、お母さん達はみんな登録してチェックしているようです。地域の情報、魅力や利便性をもっと SNS で発信していけば、単発のイベントでも足を運んでくれるのではないかと。先ほどの獅子舞なども、説明も添えて発信できればいいのでは、と思います。

【地域振興部長】

防犯カメラについて、自治会が設置する場合に、費用の2分の1で上限20万円を市で補助しています。

【市長】

移住の話をもっと少しお聞きしたいのですが、宇都宮から引っ越してきたのでしょうか。

【参加者 E】

私は宮城県、妻は神奈川県出身で、仕事が宇都宮です。転勤もあり海外勤務も経験して帰ってきたときに、そろそろ家を建てようかと探し始めました。新築ですが、土地がとても安いので広く確保できて、1坪1万円で、宇都宮と比べて格安なので、その辺ももっとアピールして良いのではないのでしょうか。リアルなイメージを持つことができれば、おもしろいと思います。

【参加者 B】

文挾町は年に3~4棟、新築住宅が建っていて、人口は減っていないのです。また、市が若者向けに、自治会加入を条件にした新築住宅への補助金を設けてくれているのもありがたいと思います。あとは空き家を有効に使えればと思います。

【副市長】

空家の活用について、市は9月に、宇都宮の住宅メーカーと事業連携協定を結び、その会社が市内住宅のリフォームをPRしながら、空き家バンクとも連携するという取組みを始めたところです。1つの住宅メーカーだけ、ましてリフォームとなれば件数は多くはないですが、取組みの方向性として、先ほどの移住者視点のお話を聞いて、方向性がずれてなくて良かったと思っています。

【市長】

建設費の高騰で建物の価格は高くなっているのです、若い夫婦に向けて、宇都宮に住む人に向けて、日光市の土地の安さは強みだと思いますね。

【参加者 E】

私の知人でも、自然がよくて那須に移住したものの3年ほどで宇都宮に戻った人がいます。那須は宇都宮から車で1時間以上だし、車しか移動手段のない場所もある。それに比べて文挾は、土地は安いのにJRの駅が近い、新幹線にも乗り継げるのは強みです。宇都宮市内でも郊外に住んでいる人より、私の方が短時間で通勤できたりしますし、休日になれば庭で遊べる、奥日光にもすぐ行けるというのは、1週間の生活で見たとき・・・。

【地域振興部長】

地域振興課でも、地域おこし協力隊を採用し、移住者交流会なども始めています。移住者がどんな理由で何を求めて、なども知りたいところですので、今日もお話いただきましたが、これからも長いお付き合いをさせていただきたいと思います。

【副市長】

ローカル SNS に関連して、少し前に事業者と話していたことですが、アプリを使って若い人の参加も促しながら、まちづくりの人材を育てていこうというもの。このアプリのコミュニティの中で悩み相談などでもできるものです。ご提案のローカル SNS とは、そんなイメージでよろしいですね(そうですね、の声)。

【参加者 D】

日光市ではケーブルテレビの設置はないのですか。鹿沼ではケーブルテレビで議会中継など見ている人がいるようです。

【副市長】

今市で鹿沼と同じ時期にケーブルテレビがありましたが、加入者が少なくて続かず、今はもうありません。先ほどのローカル SNS の話で、コミュニティを作ろうとすると、LINE よりも、独自の閉じた世界のアプリの方が良いと思いますか。

【参加者 E】

自治会に入らない人がアプリをダウンロードするとは思えないので、やめた方が良いのでは。

【副市長】

自治会に限定せず、市全体としてゆるいコミュニティをつくろうというもので、若者も自由に参加できるようなものを企業の方と話していたのですが、取組みとしてはおもしろいものの、アプリの開発費があまりにも高額で難しいと感じています。

【参加者 E】

私が思うに、働いている人たちが、公民館の情報や市ホームページを逐一見に行くことはない。今回、私が参加できたのは、妻が情報を教えてくれたからです。妻がどのようにして知ったかはわかりませんが。男女共同参画とはいえ我が家は妻が専業主婦で、分業することで子どもは3人いて、情報もつかんでくれて子どもの勉強も見てくれて、2週間おきに図書館で本を借りたりできています。いろいろなライフスタイルがある中で、専業主婦もいいんだということ発信してもらえたら、いろいろな面で活性化されるように思います。

【市長】

私の妻も専業主婦です。私がこのような仕事ですので、すべてワンオペで、子ども2人の面倒を見てもらっています。妻も働いていたら無理だと思うので、今のお話はよく分かります。

【参加者 E】

都会だと、共働きでなければ家など持てないということもあると思いますが、日光では可能ということもあるので、「土地が安い」から始まっていろいろなライフスタイルに対応できるということがあるのではないかと思います。

【副市長】

市は令和5年から、女性に限定して、デジタルを活用して仕事をしたい方を募集し、5人定員のところ47人の応募がありました。その方たちを育成していくなかで、いろいろな話をしたところ、女性活躍と聞くと「働いていなければダメ」なイメージを持つ女性もいるという意見がありました。そこで今年度、働いているかどうかに関わらず、心が豊かに暮らせるようなセミナーをやってみようということで、全5回のセミナーを試しに開催していて概ね好評です。市としても、働いていることに注力する事業と、そうではない事業とに分けて考えることを意識して、取組み始めたところです。アイデアがあれば、ぜひ教えていただければと思います。

【参加者 E】

とても良いなと思います。文挟でも女性が活躍している取組みがあって、今日この会場に1人もいないのは残念ですが、仕事でないところで地域を良くすることに男性も女性もないので、そちら側から進めたほうが早いかもしれません。なぜか女性の情報網はすごいので、女性側からのアプローチは必要だと思います。

【市長】

引き続き、日光市のまちづくりに全力で取り組みますので、皆さんにもご支援とご協力をお願いいたします。本日はありがとうございました。